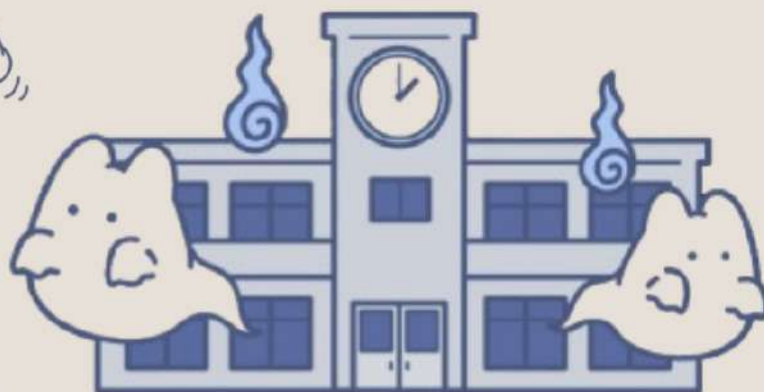


東京女子大学比較文化研究所主催
ティー・レクチャー



学校の怪談の近代

教職員の観点を中心に



先着
受付

定員30名

一柳廣孝

現代教養学部特任教授

11月10日(火)

10:55-12:25 (開場10:40)

比較文化研究所 (4号館4階)

対象：本学学生・教職員

申込先：hikaku@gr.twcu.ac.jp (11/5締切、先着順)

※学生はCISアカウントから申し込むこと。

☎ 03-5382-6749

<https://www.lab.twcu.ac.jp/icsc/event/>

東京女子大学比較文化研究所



東京女子大学比較文化研究所主催

ティー・レクチャー

学校の怪談の近代

教職員の観点を中心に

The Modern Era of "School Ghost Stories"

Focusing on

the Perspective of School Staff



■講演梗概

「学校の怪談」は1990年代に一大ブームを迎え、アニメやゲーム、漫画、映画などで取り上げられ、広く知られるようになった。以降、「学校の怪談」は「子どもたちの間で語られる噂」に注目し、主に口承文芸の立場から研究が進められている。しかし、学校で語られる、または、学校を舞台にした怪談では、子どもたちだけが登場人物ではない。学校共同体を支えている教職員もまた、これらの物語の一員である。彼らはしばしば怪談の当事者となり、語り手、伝承者でもあった。今回は明治から大正期にかけての「学校の怪談」を取り上げ、それらの話の特徴と、そこで教職員が果たしている役割から見てくるものについて、考えてみたい。特異な学校文化である「学校の怪談」は、他国の学校文化と比較するうえでの、重要な足掛かりとなり得るだろう。



『学校の怪談1』 常光徹著、檀香八郎絵（講談社）



『学校のコワイつわさ 花子さんがきた!!』 森京詞姫（竹書房）



『先生にあいにくる幽霊』 日本民話の会、学校の怪談編集委員会編著、前島昭人絵（ポプラ社）

■講師紹介

一柳廣孝 Hirotaka ICHIYANAGI 現代教養学部特任教授

1959年生まれ。愛知県出身。名古屋大学大学院博士課程満期退学。横浜国立大学名誉教授。専門は日本近現代文学・文化史。博士（文学）。著書に『催眠術の日本近代』（法蔵館文庫、2025）、『<こっくりさん>と<千里眼>・増補版』（青弓社、2021）、『怪異の表象空間』（国書刊行会、2020）、『無意識という物語』（2014、名古屋大学出版会）、編著に『「学校の怪談」はささやく』（2005、青弓社）、『心霊写真は語る』（2004、青弓社）、共著に『文学と魔術の饗宴 日本編』（2024、小島遊書房）、『もう一度読みたい日本の古典文学』（勉誠出版、2021）、監修に『怪異の時空』全3巻（2016、青弓社）など多数。



11月10日（火）

10:55-12:25（開場10:40ー）

比較文化研究所（4号館4階）

東京女子大学比較文化研究所



対象：本学学生・教職員

定員30名

申込先：hikaku@gr.twcu.ac.jp（11/5締切、先着受付）

※学生はCISアカウントから申し込むこと。

03-5382-6749

<https://www.lab.twcu.ac.jp/icsc/event/>

